

## 脱原発 再生への踏み絵

民進党の党首選を遠くから眺めていて、野党共闘などの議論など、疑問に感じる人が多い。こんなことで安倍一強、強権的な暴走政治に立ち向かえるのか。正直なところ不安を感じる毎日だ。

表題は朝日新聞9月7日朝刊「考野党 私の見方3」。城南信用金庫相談役の吉原毅さんが民進党について厳しく語っている。同感するところが多いので抜粋して紹介したい。

吉原さんが城南信金理事長のときに刊行された『原発ゼロで日本経済は再生する』2014年4月は、「脱原発」を宣言した異色の金融トップの提言として話題となり、2014年10月3日のレポートで取りあげている。



「民進党は何のための政党なのでしょうか。会社には定款があります。定款なくして会社なし。民進党は何のためにできた政党なのか、もう一度考えた方がいいと思う。今のままでは自民党に入れなかった人が民進党を作り、政治家になるために作ったような自民党の2軍に見えます。それなら1軍の方がいいやとなりませんか」

「原発問題への姿勢に、問題が象徴的に表れています。民進党内には、脱原発に反対する人もいて、党として原発反対を言えない。支持基盤の労働組合、中でも電力総連の顔色をうかがっているからでしょう。民進党が再生できるか、原発問題は一つの踏み絵。国民の多くが願っていることを実現しようとしないうる政党に、期待はできません」

— 原発推進論が強い経済界で、「原発ゼロ」を言えるのはなぜですか。

「企業は金儲けだけでいいのでしょうか。尊敬される企業でありたいし、企業には社会的責任があります。危険で、クリーンでなく、高くつく原発に頼る社会は危険です。金融マンだったら金融を通じて、どういう社会にしたいのかを考えます。健全な未来を築くために必要なことではないでしょうか」

— 代表選では「発信力」も焦点になっています。

「それがダメ。発信力に頼ろうとするということは、中身がないことの裏返しでしょう。では、なぜこれまで『原発ゼロ』を言えなかったのですか。その理由を明確に発信してほしいですね」

(2016年9月10日)